

六十谷遺跡現地公開

- 都市計画道路西脇山口線道路改良事業に伴う発掘調査 -

公益財団法人和歌山県文化財センター
和歌山市湊 571 番地 1
TEL : 073 - 433 - 3843
FAX : 073 - 425 - 4595

六十谷遺跡発掘調査事務所
和歌山市六十谷地内 遺跡調査地
TEL:090 - 3272 - 8134

はじめに

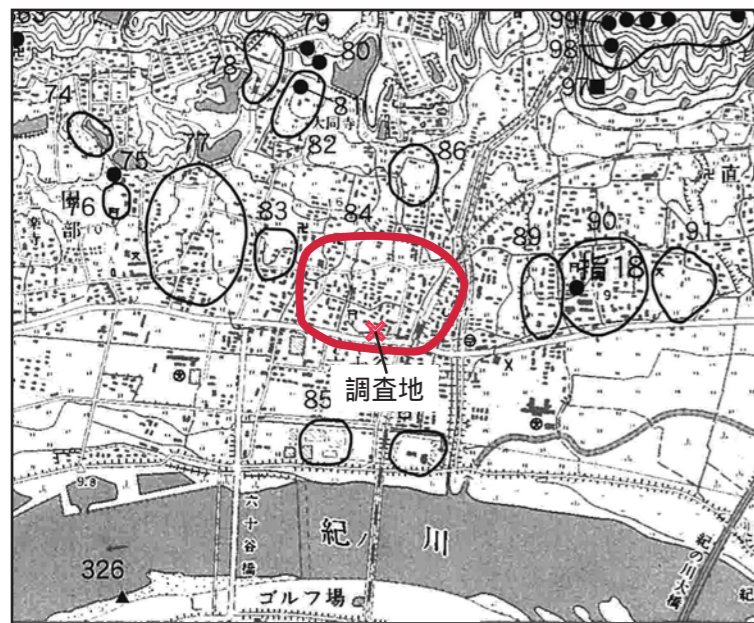
公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県より委託を受け、都市計画道路西脇山口線道路改良事業に伴い六十谷遺跡の発掘調査をしています。調査地はJR阪和線六十谷駅の西側、射矢止神社の隣接地で約 850㎡の調査を行っています。この度、発掘調査によって弥生時代～古墳時代・中世にかけて遺構が確認されたので、調査成果を公開します。

発掘調査について

六十谷遺跡は、和歌山平野の主要な弥生時代遺跡の一つとされていましたが、今までに小規模な立会調査が行われたのみで詳細は不明な遺跡でした。今回が初めての大規模な発掘調査になります。

調査地の西側に位置する射矢止神社で、土器や石器（石鏃）が採取されたことにより遺跡の存在が確認されました。射矢止神社で採取された土器は弥生時代のものが多く、石器は特に未成品の石鏃が多く採取されていることから、「石鏃生産地」と考えられています。今回の発掘調査に先立ち、擁壁工事の立会調査（県教育委員会実施）で、古墳時代のカマドがある竪穴建物（長辺5m・方形）の一部分やピット（小さな穴）・溝等が確認されています。

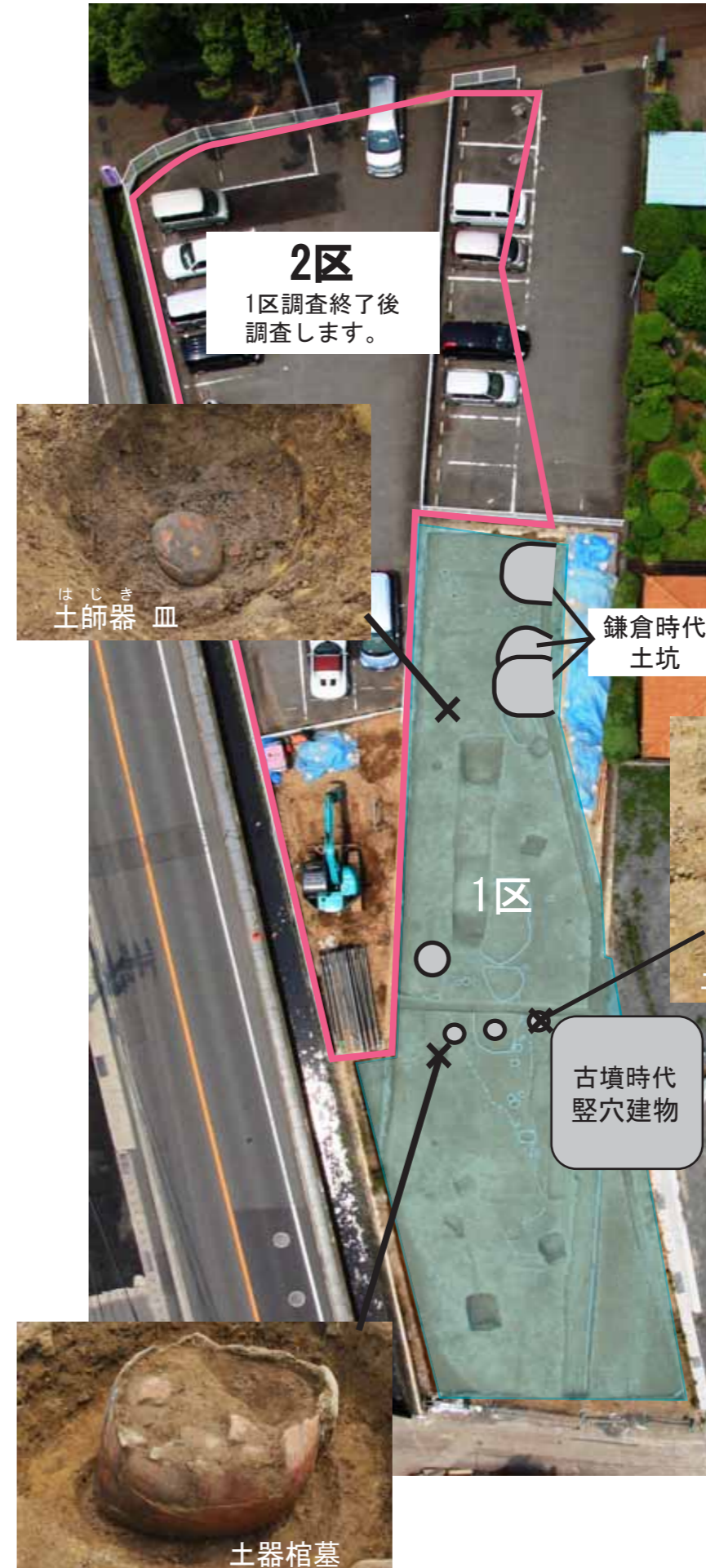
今回の発掘調査では、立会調査で一部確認された古墳時代の竪穴建物（長辺5m・方形）、弥生時代後期の土器棺墓と考えられる遺構、中世（鎌倉時代）の土坑3基、鎌倉時代の柱穴などが確認されました。また、完成品の石鏃が4点出土しており、石鏃の未製品やその原料のサヌカイトの塊も出土しています。



調査位置図

古墳時代の竪穴建物は、段丘状地形の平坦部分につくられています。調査区の北東側で旧地形が残っており、南西側に行くに従い、緩い傾斜が見られます。また、西側で確認した中世（鎌倉時代）の土坑は、本来の地形が弥生時代～中世の間に削平され整地された後に掘削された遺構と推測されます。

今回の発掘調査で、弥生時代～古墳時代、中世の時代にかけて人々が生活を行っていたことが明らかとなり、六十谷遺跡の一部を垣間見ることが出来ました。



石鏃



石鏃



土器 皿



すえき たかつき
須恵器 高杯
(竪穴建物より出土)



土器棺墓